

文献

緒方 昭子, 井手口 範男, 外村 昌子, 蓮池 光人. 腹腔鏡手術後消化器がん患者におけるソフトマッサージの効果-予備的ランダム化比較試験. 日本統合医療学会誌. 2020; 13(1): 40-46. 医中誌 web ID 2020293964

1. 目的

腹腔鏡手術後の消化器がん患者に対するソフトマッサージの有効性を検討する。

2. 研究デザイン

RCT、質的研究

3. セッティング

関西の A 総合病院外科病棟

参加者

腹腔鏡手術前に同意の得られた消化器がん患者 13 人

5. 介入

Arm 1: マッサージ施術群 (背部マッサージを 20 分程度) 6 人

Arm 2: 対照群 (10 分間の安静) 7 人

6. 主なアウトカム評価項目

体温、脈拍、血圧、疼痛 (VAS)、不安 (VAS)、KOKORO スケールの介入前後の各測定値の差及び群間の有意差を検定した。介入群には半構造化インタビューを行いマッサージの感想を聴取した。

7. 主な結果

患者の背部に 1 秒間に 5cm の速度で 20 分程度のマッサージを行ったが、施術者を 2 人 (オンコロジマッサージ受講者) としたため施術方法の統一を図った。体温、脈拍、血圧、疼痛、不安及び KOKORO スケールにおけるワクワク・イライラの各項目では両群間に差は認めなかったが、KOKORO スケールの不安・安心項目では両群間に有意差を認めた ($p < 0.0393$)。一方、マッサージの感想では、「痛み」「温もり」に関する身体的効果と「気持ちよさ」「安心」「リラクゼーション」「気分」に関する心理的効果が、また、スピリチュアルの領域では「手の力」について、それぞれ肯定的な思いが語られていた。

8. 結論

腹腔鏡手術後の消化器がん患者の背部に対するソフトなマッサージは患者の身体的・心理的苦痛を和らげる看護ケアの一助となる可能性が示された。

9. 論文中の安全性評価

記載なし

10. Abstractor のコメント

本研究の特徴は腹腔鏡手術後の身体的・心理的苦痛に対するソフトマッサージの効果を RCT のみならず半構造化インタビューによる質的研究の手法も取り入れて明らかにしようとした点にある。看護師による療養上のケアやマッサージの効果に関するエビデンスは実験研究だけで測ることが難しい要素を多く含むため質的な検証が重要となる。本研究において RCT では十分な成果を得られなかったマッサージの効果が感想の中で多く語られていたことはその証左といえよう。研究参加者の数を増やした更なる研究に期待したい。なお、マッサージの有効性に関する研究を行う場合は、看護領域であっても、研究の質の向上とコンプライアンス (あはき法遵守) の観点から、専門職であるあん摩マッサージ指圧師と連携した研究体制の構築が望まれる。

11. Abstractor and date

藤井亮輔 2021. 12. 19